

# 地理歴史科（世界史探究）学習指導案

指導者

印

- 1 履修単位数 3 単位
- 2 実施日時 令和 7年 月 日 ( ) 第 時限
- 3 学級 ○○HR (○名)
- 4 使用教科書 世界史探究 詳説世界史 山川出版社
- 5 単元名 アジア諸地域の動揺

## 6 単元設定の理由

### <生徒観>

本 HR の生徒は○人と少数ながらも、世界史探究に対する興味・関心をもっており、自ら気になった偉人や出来事を調べて教員に伝えにきたり、歴史上の出来事に疑問を持ちお互いに意見交換したりするなど意欲的かつ主体的に取り組むことができている。また前単元の「イギリスの優位と欧米国民国家の形成」で、フランス革命の理念が波及したことによる自由主義やナショナリズムの考え方が欧米諸国に広まったこと、近代科学の発展によって社会が変化したことについても理解している。さらに本 HR 生徒は○○科であり、進学を希望する生徒が多いことから学習に対する意欲が高い。

### <教材観>

本単元は、学習指導要領に示されている「内容 D 諸地域の結合・変容 (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 ア (イ) 及びイ (イ)」にあたる。今回扱う単元「アジア諸地域の動揺」では、ヨーロッパ諸国がアジア地域に進出してきたことで、アジアの伝統的な国家体制や貿易の仕組みが変更を余儀なくされたこと、アジア諸国で民族意識の芽生えや諸改革が進められたことを学習する。さらに日本においては、外国勢力の影響により幕藩体制が崩れ、明治維新へとつながっていくように、日本を含め世界全体で見ても大きく社会構造が変化した時代であるといえる。したがって、この教材を通じてアジア諸国の植民地化と諸改革を基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解できるようにしたい。また、世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することができるようにしたい。

### <指導観>

アジア諸地域の動揺については、アジア諸帝国が財政難に陥った資料や諸民族の動きに関する資料を提示したり、ヨーロッパ諸国の思惑に関する資料を比較したりすることにより、ヨーロッパ諸国によるアジア地域の経済的・政治的支配がどのような経緯で進められたのかを理解できるように指導する。また、アジア諸国の国内情勢や近代化政策に関する資料を提示することにより、どのような影響をもたらしたのか、また、どのような点が不十分であったのかについて考察させたい。さらに、アジア各国の動揺の要因がヨーロッパの進出だけでなく、国内情勢にもあったことを理解させたい。

## 7 単元の目標

- (1) アジア諸国の植民地化と諸改革を基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解する。
- (2) 世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の繋がりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、アジア諸国の変容の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- (3) 世界市場の形成とアジア諸国の動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追求してみたいことなどを見出して、見通しをもって学習に取り組む。

**単元の基軸となる問い**

ヨーロッパ諸国の進出に対して、アジア諸国の政権や人々はどのように対応したのだろうか。

**8 単元（題材）の評価規準**

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・アジア諸国の植民地化と諸改革を基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。	・世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、アジア諸国の変容の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界市場の形成とアジア諸国の動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追求してみたいことなどを見出して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

**9 指導と評価の計画** 単元名 アジア諸地域の動揺 全6時間

- 第一次 ヨーロッパ諸国の進出に対してオスマン帝国はどのように対応したのだろうか。・・・【●知】
- 第二次 なぜムガル帝国は崩壊し、インド帝国が成立することとなったのだろうか。・・・【○知】
- 第三次 なぜタイは東南アジア諸国で唯一独立を維持できていたのだろうか。・・・【●思】
- 第四次 なぜ大国である清はイギリスとの戦争に敗れてしまったのだろうか。・・・【○思】（本時）
- 第五次 清はどのようにして国内の秩序を立て直しをはかろうとしたのだろうか。・・・【●態】
- 第六次 ヨーロッパ諸国の東アジア進出は日本にどのような影響を与えたのだろうか。・・・【○態】

単元の指導計画（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時程	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一次	<p><b>【基軸となる問い】</b> ヨーロッパ諸国の進出に対して、アジア諸国の政権や人々はどのように対応したのだろうか。</p>				
	<p><b>【本時の問い】</b> ヨーロッパ諸国の進出に対してオスマン帝国はどのように対応したのだろうか。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オスマン帝国に動揺をもたらした要因について考える。</li> <li>・国内外の危機に対してどのような改革を行ったのかを調べ、まとめる。</li> </ul>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>●オスマン帝国の危機に対して行った改革についてまとめられている。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">(評価資料) ノート</p>

第二次	<p>【本時の問い】なぜムガル帝国は崩壊し、インド帝国が成立することとなったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東インド会社の活動と当時のムガル帝国内の様子について調べる。</li> <li>イギリスの政策と与えた影響について考える。</li> </ul>	○	<p>○東インド会社の活動とムガル帝国内の状況についてまとめられている。</p> <p>(評価資料) ノート</p>
第三次	<p>【本時の問い】なぜタイは東南アジア諸国で唯一独立を維持できていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東南アジアの植民地化がどのように進んだのかについて調べる。</li> <li>タイの政策について調べ、東南アジアで唯一独立を維持できた要因について考察したことをまとめる。</li> </ul>	●	<p>●東南アジアで唯一独立を維持できた要因についてまとめられている。</p> <p>(評価資料) ワークシート</p>
第四次 ★ 本時	<p>【本時の問い】なぜ大国である清はイギリスとの戦争に敗れてしまったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清が敗れた要因について、自身が立てた仮説を検証する。</li> <li>検証した内容について共有し、グループで「清がイギリスに敗れた要因」について話し合い、考察を深める。</li> </ul>	○	<p>○アジアの大国である清がイギリスに敗れることになった要因について多面的・多角的な視点からまとめられている。</p> <p>(評価資料) ワークシート</p>
第五次	<p>【本時の問い】清はどのようにして国内の秩序の立て直しをはかろうとしたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アヘン戦争、アロー戦争後の清の国内はどのような状況であったのかについて調べ、話し合う。</li> <li>清の国内情勢を鑑みて、もし自分が当時の皇帝ならどのような政策をとるのか考え、発表する。</li> </ul>	●	<p>●当時の清の国内情勢を踏まえて、状況を打破する政策について考えようとしている。</p> <p>(評価資料) ワークシート</p>

第六次	【本時の問い】ヨーロッパ諸国の東アジア進出は日本にどのような影響を与えたのだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ諸国が進出する前の日本の様子について調べ、まとめる。</li> <li>・ヨーロッパ諸国の進出後の日本がとった政策について調べ、ヨーロッパ諸国進出の前後の変化について話し合い、発表する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ○自身が調べた内容について、クラスメイトに共有しようとしている。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">(評価資料) 発表</div>

## 10 本時の指導目標

清がイギリスとの戦争に敗れた要因を考えることを通じて、当時の清の国内状況について多面的・多角的に考察できるように指導する。

## 11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準	評価方法
10分	【単元の基軸となる問い】ヨーロッパ諸国の進出に対して、アジア諸国の政権や人々はどのように対応したのだろうか。			
	【本時の問い】なぜ大国である清はイギリスとの戦争に敗れてしまったのだろうか。			
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アヘン戦争に関する既習事項を確認し、「なぜ大国である清はイギリスとの戦争に敗れてしまったのだろうか。」という本時の問いを通して、学習目標をつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料等を大型提示装置に提示することにより、既習のアヘン戦争の内容について想起できるようにする。</li> <li>・清がアジア地域では大国であり大きな影響力を持っていたこと、歴史上の戦争では国家間に武力の差があったとしても勝利している事例が複数あることを提示し、清がイギリスに敗れた要因が武器以外にもあるのではないかと疑問を抱かせるようにする。</li> </ul>		
展開① 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大国である清がイギリスとの戦争に敗れてしまった要因について、仮説を立て、検証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説を立てた後、検証するために必要となる要素を話し合うことにより、考えるべきことを整理し、後の学習をスムーズに進められるようにする。</li> <li>・インターネットを用いて調べる際の注意点につ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「政府が財政難に陥り、秩序維持機能が低下していたこと」「清の軍隊は近代化が遅れ、イギリスとは圧倒的な差があったこと」など多面的・多角的な視点から清の敗因について記述し、ワークシートにまと</li> </ul>	ワークシート

		いて指導することにより、出典や根拠を明らかにして仮説を検証できるようにする。 ・清に関する資料をMetaMoJi ClassRoomで配付することにより、当時の清の様子について調べられるようにする。	めることができている。 【思】	
展開② 10分	・検証した内容について共有し、「清がイギリスに敗れた要因」について話し合い、考察を深める。	・内容を共有する際に、各々が調べた内容のなかで重要だと思うポイントについて下線を引くように指導することで、結論を導き出すときに核となる部分を見抜くことができるようにする。		
まとめ 10分	・本時のまとめを行い、次回以降の授業に向けての展望を考える。	・清がイギリスに敗れた要因について武力以外にも清国内の問題があったことについて確認し、清の敗戦が清及び世界にどのような影響を与えることになったのか考えさせる。		

## 12 評価の目安と目標実現のための手立て

【例】 【思考・判断・表現】

A	十分満足できる	「政府が財政難に陥り、秩序維持機能が低下していたこと」「清の軍隊は近代化が遅れ、イギリスとは圧倒的な差があったこと」など多面的・多角的な視点から清の敗因について記述し、さらにそれらの背景について具体的に記述することができる。
B	おおむね満足できる	「政府が財政難に陥り、秩序維持機能が低下していたこと」「清の軍隊は近代化が遅れ、イギリスとは圧倒的な差があったこと」など多面的・多角的な視点から清の敗因について記述し、ワークシートにまとめることができる。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	生徒につまずいている箇所について聞き、清の国内情勢やイギリスと清の軍隊について注目するように指導することで、生徒が主体的に活動できるようにする。